

## 美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 (①企04-12-2/5)

### 目 的

本研究は彫刻や絵画、また工芸といった様々な美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日にどう至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連諸分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないし文化財に対するより深い理解を形成することを目的としている。

### 成 果

#### 1. 作品・関係資料の調査・研究

今年度は以下の各機関・所在地にて各種の文化財を調査した。

- (1) 大阪市立美術館・長岡京市 ギメ本大政威徳天縁起絵巻関連資料及び奉納地
- (2) 東京国立博物館 国宝絹本着色千手観音像
- (3) 東京国立博物館、浦添市美術館、国内工房ほか 日本・中国・朝鮮製螺鈿器・漆器
- (4) ドイツMuseum Für Lackkunst、オランダHet Loo宮殿博物館・Cultural Masonic Centre' Prins Frederik' 日本近世輸出螺鈿漆器

#### 2. 彩色関係データベース（語彙・史料編）の公開：美術工芸品の彩色を考えるうえで重要となる、史料上にあらわれた関係語彙とその使用例の総覧が可能となることを目的に、彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積とホームページでの公開を行った。集積に際しては前中期計画に引き続き、公刊史料（活字本）をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出・分類し、「彩色関係資料データベース」をホームページにおいて公開するとともに、逐次、その校訂・更新を実施した。

#### 3. 寄贈資料の整理：前中期計画に引き続き、表現技法材料研究ととくに関わりの深い久野健旧蔵資料中の手書き調査ノートへのデータ入力と写真資料整理、及び秋山光和旧蔵スライドをスキャニングしデジタルデータ化した。

### 論文

- ・綿田稔「永享七年の竹庵大縁をめぐる画事より—松岡美術館の周文画とケルン東洋美術館の靈照女図—」『美術研究』407 pp. 34-50 12.9
- ・綿田稔「研究資料 御絵鑑一元禄十三年板の画法書—」『美術研究』408 pp. 181-188 13.1
- ・中野照男「光学的調査及び蛍光X線分析による壁画ドルナ像の検証」（中文「運用光学手法以蛍光X線分析検証壁画徒盧那像」）『敦煌・絲綢之路国際検討会報告書』神戸大学 13.3

### 発表

- ・Tomoko Emura, Classicism, Subject Matter, and Artistic Status--In the Work of Ogata Kōrin, Symposium The Artist in Edo, at CASVA-Center for Advanced Study in the Visual Arts, National Gallery of Art, Washington DC, USA 12.4.13
- ・小林公治「南蛮漆器成立・製作の経緯と年代再考—中間報告—」2012年度第5回総合研究会 13.2.5
- ・綿田稔「ギメ本大政威徳天縁起絵巻について」企画情報部研究会 13.3.19

### 研究組織

○小林公治、田中淳、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、二神葉子、綿田稔、小林達朗、皿井舞（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）